

人に優しいまちづくり

市長：この度は武雄商工会議所会頭への就任、おめでとうございます。会頭になられた今、どのような取り組みをお考えですか？

溝上：まずは商工会議所の体制を見直したいと思い、職員の個別面談を行いました。これまでと違う商工会議所を目指したいですね。「人に優しいまち」づくりを目標に、商工会議所としての役割を模索しています。今後新幹線も開通するので、駅周辺をはじめとした、まちづくりについても力を入れたいです。

市長：「人に優しいまち」ですね。今後は市役所の新庁舎や子ども図書館の開設、新幹線の開通など、武雄を取り巻く環境も大きく変化していきます。私は、安心して働き、子どもを育て、一生を遂げられるまちづくりを目標にしています。会頭の仰る「人に優しいまち」に繋がるように思います。

女性を取り巻く職場環境の改善を

溝上：「人に優しいまち」づくりのためにも少子高齢化が進む今、若い人がいかに働き続けられるかが大事ではないでしょうか。中でも女性の働き方が特に

のために地元を離れて長崎や福岡で暮らす若者も、今後は武雄で暮らしながら他県で仕事をするという働き方も可能でしょう。これまで他県に流れていた人口を、いかに武雄に留めるかが、今後の雇用を取り巻く環境を考えるうえで何より大事です。

市長：人口流出を防ぎ、雇用を維持することで市全体が活性化するでしょう。まちづくりには、まずは人の確保が第一だと考えます。新幹線開通に向けて、若者の多様な生き方を後押しする施策に取り組めます。

雇用のミスマッチ解消が

まちづくりに繋がる

市長：人の確保と合わせて、雇用の創出もまちづくりに欠かせない要素ですね。市内企業の状況としては、働きたい人はいても希望の職が無いなど、雇用のミスマッチが起こっていることが課題だと思います。ミスマッチを解消することが雇用創出に繋がるように思いますが、それについてはどうお考えですか？

溝上：ミスマッチ解消は重要ですね。そのために私は、より早期でのマッチングの機会の創出を提案します。例えば就職や進学を控えている高校3年生の生徒

重要だと思っています。女性職員は結婚、出産、子育てなど避けられない節目があります。私自身、九州ひぜん信用金庫の会長としてその節目を支える環境づくりに努めています。行政はもちろん、企業のトップが率先して多様な働き方を提案することが重要です。

市長：確かに女性が働きやすい職場環境を整える必要があるでしょう。例えば、育児のために休みを取ってからも復帰しやすい職場づくりや、子どもが病気になるっても仕事ができるように病児保育を拡充したり、在宅で仕事ができるテレワークの推進なども有効だと思います。

まちづくりには「人」が第一！

市長：加えて、今後新幹線西九州ルートが開通することで、近隣都市から見えてハブ（都市間を繋ぐ中心地）的な位置にある武雄だからこそできる働き方も提案できるのではないかと感じています。

溝上：そうですね。より多様な働き方を提案できると思います。例えば、今は仕事がないが、市内企業の情報や働き方についての情報を得られるきっかけを作るのはどうでしょうか。方法としては、ぜひ行政が主となって情報発信の役割を担って欲しいものです。その受け皿として商工会議所のHPにも関連する情報を掲載するなどして連携できたら良いですね。何にしても未来の働き手が、「武雄で働く」ということをイメージできるきっかけ作りをしっかりと整備する必要があります。

市長：なるほど、雇用の入り口を整備することは未来の雇用の維持、創出に繋がるでしょう。

溝上：加えて、働きたいという気持ちがあっても、資格や免許に阻まれていたりの方の就職支援として、就職に必要な資格や免許の取得をサポートする体制を整えることも考えられるでしょう。ミスマッチを無くし、戦力となる人材の育成を進めることで、市全体の雇用を増やすことは未来のまちづくりに繋がります。雇用についての政策は今年度の大きなテーマと考えています。今後も官民で連携した取り組みを進めていきたいと思っておりますので引き続きご指導をお願いいたします。

溝上：共に理想のまちを実現しましょう。よろしくお願いたします。

新春対談 Part1

未来のまちづくり

新幹線開通、新庁舎や子ども図書館の開設など大きな転換期を迎えるこれからの武雄市。未来のまちづくりに必要なことは!?



武雄商工会議所 会頭
溝上 邦治 Mizokami Kuniharu

1973年杵島信用金庫入社。合併により2010年2月に誕生した九州ひぜん信用金庫の初代理事長、2016年6月から会長を務める。2016年11月、武雄商工会議所会頭に就任。



武雄市長
小松 政 Komatsu Tadashi